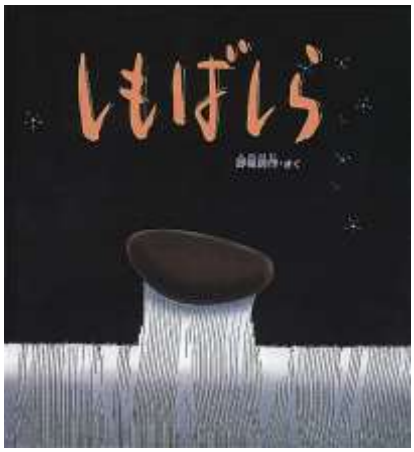
令和５年度冬　子ども図書館おすすめ本

★幼児におすすめの本★

★『しもばしら』

野坂勇作/作　福音館書店



さむい朝。はーちゃんがおばあちゃんの畑に、大根をとりにいくお手伝いをしに外へ出ると、歩くたびにさっくすっくとふしぎな音が聞こえます。いったい何をふんだのだろう。あしあとをのぞきこむと、そこには細長いこおりの たば が、地面からびっしりとはえていました。おばあちゃんにきくと、これは「しもばしら」というこおりのなかまだそう。しもばしらはいったいどこにあって、どうやってできるのでしょうか。はーちゃんのしもばしらたんけんがはじまります。

★『野ばらの村の雪まつり』

ジル・バークレム/作　こみやゆう/訳　出版ワークス

もりのなかに、ねずみたちのくらす「野ばらの村」がありました。そこには冬がやってきて、雪がたっぷりとつもっています。ねずみのこどもたちは、初めての雪におおはしゃぎ。おとなたちも「雪まつり」のダンスパーティーをひらくことにしました。ごちそうづくりに、アイスホールづくりとねずみたちはせっせとはたらきます。はたしてどんなパーティーができあがるのでしょうか。

のばらの村のものがたり『雪の日のパーティー』(岸田衿子/訳・講談社刊)の新装・新訳版。

★『ゆきのひ』

かこさとし/作　福音館書店

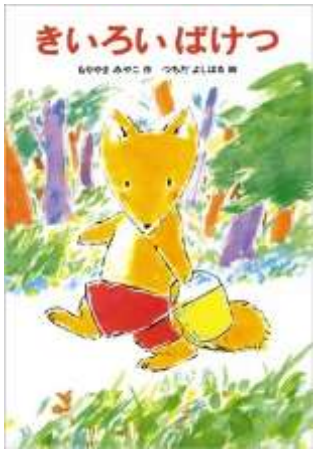
とよちゃんのすんでいるところに、ちらちらとゆきがふりました。こどもたちはつもったゆきで、ゆきがっせんをしてあそびます。もっとつもると、じどうしゃのタイヤにはくさりをまき、せんろのゆきかきには らっせるしゃ がはしります。やねからゆきをおろしたり、スキーやそりあそびをしたり、おとなもこどももおおいそがし。ゆきのひの、たのしさときびしさをえがいたえほんです

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

★小学校1・2・3年生におすすめの本★

★『きいろいばけつ』

もりやまみやこ/作、つちだよしはる/絵　あかね書房



きつねのこが、はしのたもとで、きいろいばけつをみつけました。それは、きつねのこがほしいとおもっていたような、すてきなばけつ。ともだちに、1しゅうかん　だれもとりにこなかったら、じぶんのものにしたら、といわれ、きつねのこは1しゅうかんまちます。まいにち、なんべんもばけつを見にいって、うっとりながめたり、たまったあまみずをすてたり…。とうとう1しゅかんがたって、きつねのこがばけつのところにいってみると――――。

★『火曜日のごちそうはヒキガエル』

ラッセル・E. エリクソン/作　佐藤 涼子/訳　ローレンス・ディ・フィオリ/絵　評論社

ヒキガエルのウォートンは、ふゆのある日、おばさんのところに出かけました。とちゅうでゆきにうもれたネズミをたすけます。ところが、大きなミミズクにつかまってしまいました。ウォートンは、ミミズクが火よう日にじぶんをたべるつもりだとわかります。ウォートンはミミズクのへやをそうじしたりしてだんだんなかよくなります。でもやっぱりこわい。するとネズミがウォートンをたすけにやってきますが…。さあどうなるでしょうか。

★『きらきら』

谷川 俊太郎/文　吉田 六郎/写真　アリス館

ゆきのけっしょうを、みたことがありますか。

これは、ほっかいどうの山にふった、ゆきの、ひとひら　ひとひらを、とくべつなしゃしんでとった、ゆきのけっしょうの　しゃしんえほんです。

「きれいだね　てんからおちてきた　ほしみたい」

すきとおってきらきらかがやいた、いろいろなかたち。ふしぎできれいな　ゆきのけっしょうを、ながめてみませんか。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

★小学校4・5・6年生におすすめの本★

★『農場の少年』

ローラ・インガルス・ワイルダー/作　ガース・ウィリアムズ/画　恩地三保子/訳
福音館書店

今からおよそ100年前、アメリカ開拓時代のニューヨーク州北部に、9歳のアルマンゾという少年が暮らしていました。アルマンゾは農場の息子で、大自然に囲まれながら毎日の仕事を懸命にこなします。馬小屋に干し草を新しく敷き、牛たちに餌を与え、乳しぼりをする……。そして、やがては子牛をしつけるのを許されたり、しつけに使う鞭を自分で編んだりと、少しずつ一人前の農夫として認められていくのです。

自給自足のたくましい生活と、細やかに描かれる美味しそうな料理の数々を、味わってみてはいかがでしょうか。

※同じ作者のシリーズには『大きな森の小さな家』（福音館書店刊）などがあります。

★『イグルーをつくる』

ウーリ・ステルツァー/写真・文　千葉茂樹/訳　あすなろ書房

カナダ北部の氷雪地帯などに昔から暮らしている狩猟民族・イヌイット。彼らの家を、イグルーといいます。イグルーは雪で出来た家で、形は日本の かまくら に少し似ています。この本ではイグルーがどのようにして作られるのかを写真と文で詳しく紹介しています。彼らがどうして雪の家をつくるのか、厳しい寒さの中でどのような暮らしをしているのか、ぜひ本を読んで確かめてみてください。

★『南極から地球環境を考える１　南極観測のひみつ Q&A』

国立極地研究所/監修　こどもくらぶ/編　丸善出版株式会社

みなさんは南極に行きたいと思ったことはありますか？

実は、日本からは毎年約 80 名ほどの「南極観測隊」が、環境調査の為に南極へ行っているのです。いったい南極ではどのような生活をしているのでしょうか。

この本では出版された 2014 年の情報をもとに、南極への行き方、南極での過ごし方、南極観測隊の仕事などが詳しく紹介されています。スコット隊の悲劇、日本人初の南極探険隊隊長・白瀬 矗、奇跡の犬タロとジロ、砕氷船（南極観測船）「しらせ」など、南極に　まつわるものが盛りだくさんの一冊です。

※もっと詳しく知りたい人は『まぼろしの大陸へ　白瀬中尉南極探検物語』（池田まき子/著、岩崎書店刊）や、『その犬の名を誰も知らない』（嘉悦洋/著、北村泰一/監修、小学館集英社プロダクション刊）もご一緒にどうぞ。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★